第7号
March 2012

いわて高等教育コンソーシアム
The Iwate Higher Education Consortium

NEWS LETTER

http://www.ihatov-u.jp/

Index

ご挨拶 1
『地域を担う中核的人材育成事業の開始』

『地域を担う中核的人材育成事業』を開始します 2〜3

学生の地域参加プロジェクト『きずなプロジェクト』 4〜5

トピックス 6〜7

・大学教職員のためのメンタルヘルスケア研修会

・高大連携ウインターセッション

・いわての大学に行こう！ ーいわて5大学、駅前講義ー

・平成23年度シンポジウム

・平泉文化フォーラム

・学生による地域づくり in 八幡平市

いわて学 8
平成24年度上半期の計画・編集後記

ご挨拶

地域を担う中核的人材育成事業の開始

いわて高等教育コンソーシアム運営委員長
岩手大学 副学長
髙畑義人

いわて高等教育コンソーシアムは平成20年度から3年間の始動期を経て、今年度から稼働期にはいりました。この稼働期に入る直前の平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、岩手県も甚大な被害を受けました。いわて高等教育コンソーシアムとしては、平成23年6月15日に5大学学長連名による学長宣言「岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で！」を発し、分野の異なる学部を持つ5大学がそれぞれの特徴を生かしながら、連携の力で地域の知の拠点を目指し、復興を担う人材育成を推進していくことを宣言しました。直ちにコンソーシアム内に震災復興ワーキンググループを立ち上げ、5大学学長宣言の具体化に取り組んできました。

この度、ワーキンググループが作成した復興計画案は、文部科学省が公募した復興支援事業「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」に採択され、コンソーシアムは「地域を担う中核的人材育成事業」として、沿岸復興活動拠点形成事業、大学進学事業、中核的人材育成事業、地域貢献事業の4つの事業に、今年度から5カ年の予定で取り組むことにしました。本事業は、岩手県立大学の「いわてGINGA-NETプロジェクト」と連携するとともに、全国大学コンソーシアム協議会加盟大学の協力を得て、5大学の特色を最大限に生かしながら、震災復興を担う地域の中核的人材の育成と被災地の復興に貢献する研究を推進していくものです。

具体的な取り組みは、2・3ページに記載されておりますが、本事業の実施により、短期的には、被災地域のネットワーク作りや児童・生徒への学習支援などに学生の力を結集することによって地域コミュニティの再生に寄与していくとともにテレビ会議システムを活用した沿岸高校生への講義配信を行い大学進学への関心を高め、中・長期的には、復興を担う地域の中核的人材を育成するプログラムを開発・実施することで、地域に根ざし、地域を支えていく人材の輩出を目指しております。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成23年度文部科学省「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」

『地域を担う中核的人材育成事業』を開始します

いわて高等教育コンソーシアムは、文部科学省が公募した復興支援事業（大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業）に採択され、『地域を担う中核的人材育成事業』として、「沿岸復興活動拠点の形成」、「大学進学事業」、「中核的人材育成事業」、「地域貢献事業」に、今年度から5か年の予定で取り組むことといたしました。

本事業は、岩手県立大学の「いわてGINGA-NETプロジェクト」と連携するとともに、全国大学コンソーシアム協議会加盟大学の協力を得て、5大学の特色を最大限生かしながら、震災復興を担う地域の中核的人材の育成と被災地の復興に貢献する研究を推進していくものです。

事業の実施により、短・中期的には、被災地域のネットワーク作りや心のケア、児童・生徒への学習支援などに学生のパワーを集結することによる地域コミュニティ再生への寄与とともに、中・長期的には、復興を担う地域の中核的人材を育成するプログラムを実施することで、地域に根ざし、地域を支えていく人材の輩出が期待されます。

いわて高等教育コンソーシアムは、本事業に取り組むことにより、岩手の復興の一翼を担っていく所存でございますので、今後ともご支援の程よろしくお願い申し上げます。

地域を担う中核的人材育成事業

いわてGINGA-NETプロジェクト

夏期・冬期休業中以外でも参加可能。
被災県の所在する大学のメリット活用。

中核的人材育成の実践の場。

連携

学生ボランティア活動の方法と活動の場の提供。

更に全国から参加した学生との交流の場の提供。

いわて高等教育コンソーシアム

連携大学

岩手大学
岩手県立大学
岩手医科大学
富士大学
盛岡大学

①沿岸復興活動拠点の形成
②大学進学事業
③中核的人材育成事業
④地域貢献事業

要望　支援

全国大学コンソーシアム協議会・加盟大学

「ボランティアとリーダーシップ」等の講師を全国から招聘。

協力

震災復興に関する総合科目開設のための講師派遣依頼。

●地域からの多様なニーズ〈岩手県東日本大震災津波復興計画から〉
①「暮らしの再建」（教育・文化・地域コミュニティ）
②「暮らしの再建」（市町村行政機能：復興基本計画）
③「なりわいの再生」（水産業・農林業等）

全体スケジュール

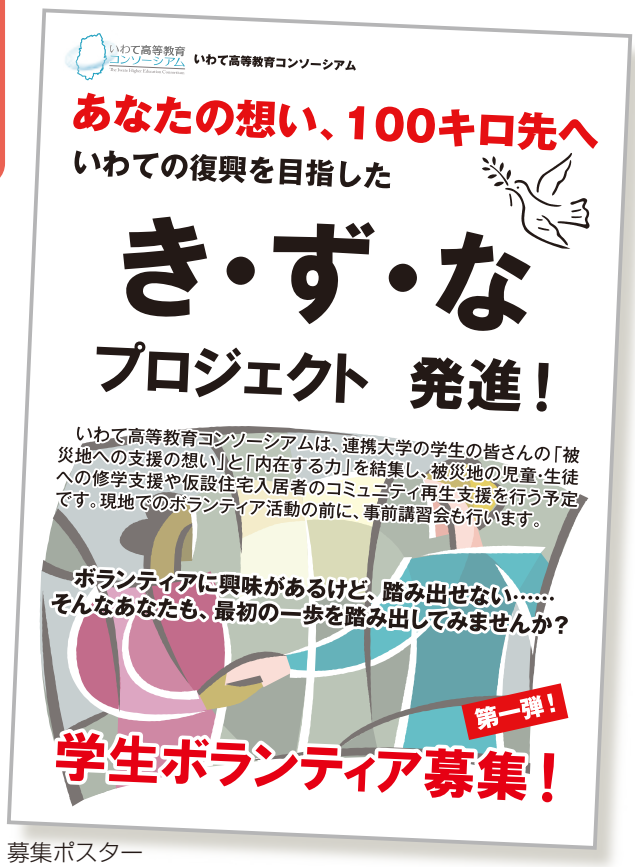
No.	事業名・主な取組みの内容	H23 後期	H24 前期	H24 後期	H25 前期	H25 後期	H26 前期	H26 後期	H27 前期	H27 後期
①	**沿岸復興活動拠点形成事業** ●**活動拠点の形成**（平成23年度開始） 三陸沿岸中央部に位置する釜石市に活動拠点を設置するとともに、活動用の車両や事務室を整備し、各種の取組を推進します。	開始								
②	**大学進学事業** ●**沿岸地域高校生への学習支援**（平成23年度設置 - 24年度以降実施） 被災地の３高校（久慈高校・釜石高校・大船渡高校）にTV会議システムを設置し、講義等を配信します。配信したコンテンツはリアルタイム及びオンデマンドで閲覧可能となります。	設置	実施							
	●**ニーズマッチング事業の実施**（平成23年度作成 - 24年度以降実施） 連携５大学のサークル等の「ボランティア活動提案書」を作成し、岩手県教育委員会を通じて被災地の小中高校へ提供します。各学校からのニーズと大学のシーズのマッチングを行います。	作成	実施							
③	**中核的人材育成事業** ●**「いわて学」の展開**（平成23年度開始） いわて高等教育コンソーシアムの共通科目として開講している「いわて学」に、震災復興の視点を取り込みます。	開始								
	●**学生活動の支援**（平成23年度開始） 問題解決へ取り組む公募型プログラム「地域課題解決プロジェクト」では、「いわてGINGA-NET」の活動と連携しつつ、「きずなプロジェクト」として実施している学生による震災復興活動を支援します。	開始								
	●**新規科目の開講**（平成24年度開始） 「ボランティアとリーダーシップ」、「危機管理と復興」をコンソーシアムのコア科目として新規に開講します。開講にあたっては、コンソーシアム教員の他に、全国大学コンソーシアム協議会の協力を得て講師を招請し、教員ボランティアによる震災復興のモデルケースを目指します。 既に名古屋産業大学、電気通信大学、上越教育大学など13大学の教員から協力の申し出をいただいております。		開始							
	●**ワークショップの開発**（平成23年度開始） 被災地の自治体職員とコンソーシアム教職員が震災の経験を共有し、今後の自治体での防災・減災への取組や、メンタルヘルス面での活動に反映させるとともに、震災の実体験を研究分野に反映させるためのワークショップを開発します。 被災地の学校で高校生や大学生が震災について共に学び、今後の防災・減災活動等に反映させるためのワークショップを開発します。	開始								
	●**人材育成プログラムの開発**（平成24年度以降） 上記科目を開発するとともに基礎科目、展開科目を整理し、総合的にコーディネート力を備えた人材育成プログラムを平成25年度までに開発します。		平成24年度以降開始							
④	**地域貢献事業** ●**調査研究の実施**（平成23年度開始） 震災直後から各大学で取り組んでいる各種活動や研究シーズを基に、被災地の各種ニーズ（防災・都市計画・教育・医療・産業・文化財保護など）に対応するため、各大学の特色を活かした横断的な研究チームを設置し、調査研究を実施します。 調査研究結果は、被災自治体の復興計画や企業・住民に還元し、地域復興に役立てます。	調査開始 研究調査に基づく提言は随時								

学生の地域参加プロジェクト

きずなプロジェクト

いわて高等教育コンソーシアムは、国立大学協会「震災復興・日本再生支援事業」の支援を受けて、学生の地域参加型プロジェクト「きずなプロジェクト」のボランティア活動を実施しました。

学生の地域参加型プロジェクト「きずなプロジェクト」は、いわて高等教育コンソーシアムの学生が、東日本大震災で甚大な被害を受けた三陸沿岸の各市町村においてボランティア活動を行う取り組みであり、163名の学生から申込みがありました。



募集ポスター

12月10日、11日には国立岩手山青少年交流の家で事前講習会を開催し、個人または団体で行ってきた東日本大震災後の復旧・復興に向けての取り組みについて報告を行ったほか、これからボランティア活動を行うにあたっての期待や不安をグループ毎にまとめ、それを全体で共有しました。さらに、学生たち自らがボランティアのルールを考え、また、自分たちにはどのようなことが出来るのかについて話し合いました。

12月17日、18日に宮古市、釜石市で行われた現地ボランティア活動には延べ108名の学生が参加しました。宮古市では津波で被災した住居の片付け、清掃のほか仮設住宅で行われたクリスマス会の運営補助を行いました。一方釜石市では、被災者に支援物資を支給する青空市を実施し、会場となった団地は多くの住民で賑わいました。

事前講習会に参加する５大学の学生

事前講習会のグループワークの様子

1月8日、9日は陸前高田市において活動を行い、延べ69人の学生が参加しました。他の地域に比べて被害の大きかった陸前高田市では土嚢積みなどハード面の支援活動が中心となりましたが、学生たちは他大学の学生と協力しながら精力的に作業に取り組みました。

今回申込みのあった学生の中にはボランティア活動に初めて参加する学生もおり、「自分が本当に役に立てるのか」といった不安も聞かれましたが、事前講習会や現地での仲間との活動を通じてそのような不安は解消されたようです。また、学生たちにとっては大学間のネットワークを広げる機会にもなり、大変有意義な活動となりました。

また、2月下旬から3月上旬にかけて、釜石市、大槌町で学習支援ボランティアを行いました。

釜石市で実施された青空市

学習支援ボランティア

いわて高等教育コンソーシアム
The Iwate Higher Education Consortium

いわて高等教育コンソーシアム

第2期スタート！

き・ず・なプロジェクト
学生ボランティア募集！

いわて高等教育コンソーシアムは、連携大学の学生が持つ「被災地への支援の思い」と「内在する力」を結集し、被災地での支援活動を行っています。

第2期の申し込みは173名（3月上旬現在）となっていますが、「誰でも、いつからでも参加」がこの活動の合言葉ですので、すでにスタートしている現在でも学生からの申し込みを受け付けています。

大学教職員のためのメンタルヘルスケア研修会

FD・SD連携推進委員会が主催する「大学教職員のためのメンタルヘルスケア研修会」が、平成23年10月21日（金）、岩手医科大学矢巾キャンパス西講義実習棟2階スタディルームで開催され、5大学から45名が参加しました。研修会は佐藤洋一委員長（岩手医科大学医学部教授）の主催者挨拶に続き、坂下史絵臨床心理士による「メンタルヘルスの基礎知識～リーダーの役割～」と題した講義が行われました。

講義では、メンタルヘルスケアの重要性、リーダーの責務と求められる具体的行動、心の健康に関する知識など、組織のメンタルヘルス対策のポイントについて解説がありました。

続いて、講義を踏まえた演習「事例検討」が行われ、メンタルヘルス不調事例への実際的な対応方法を、グループワーク形式で検討しました。2回目の演習では、藤井由里臨床心理士により「メンタルヘルスケアに活かす聴き方・話し方」と題して行われ、学生やメンタルヘルス不調者をはじめ不安や悩みを抱える人への相談・支援に役立つコミュニケーションの技法を体験しました。

参加者によるグループワークの様子

外部講師による講義

高大連携ウインターセッション

平成23年度ウインターセッションを、12月25日（日）～27日（火）の3日間、いわて高等教育コンソーシアムと岩手県教育委員会の共催で開催しました。25・26日の2日間は各大学での開講式に始まり、高校生が各大学での授業を体験し、最終日の27日は、各大学会場に分かれて参加していた高校生が、全体会として一堂に会し、盛岡駅前の盛岡市民文化ホール（マリオス大ホール）に会場を移して実施しました。県下各地から、宿泊を含め3日間の講習に参加した高校生は、昨年の470名から650名と大幅に増えました。

この全体会では、大学における学習の全体像を把握するために、各学部を、人文・社会科学分野、理学・工学・農学分野、そして医学・歯学・薬学分野に分けて紹介し、高校生が今後の進路目標をしっかり持ち、その目標達成に向けて意欲的に取り組むことを期待し実施しました。さらに、県内大学に入学した場合の参考に、「いわて高等教育コンソーシアム」について解説し、理解を深めました。

全体会に参加する高校生

高大連携ウインターセッション

いわての大学に行こう！ー いわて5大学、駅前講義 ー

高大連携分野における取り組みのひとつである「大学進学率の向上」のための事業として、高校生を対象とした「駅前講義」を実施しました。

12月3日（土）北上市生涯学習センターにてのべ310名、1月16日（月）～21日（土）岩手県立大学アイーナキャンパスにてのべ177名が参加し、大学における「学び」や将来の職業選択について、またそれに向けた「高校での学び」について説明を受けました。

講師は、連携大学より専門の教員が集まり、大学での学びに触れた受講者からは「根本的なところから説明してくれたため、学科について本で調べるよりずっと分かりやすかった。」「もっと講義を聞きたい。次回は違う系統の講義に参加したい。」「自分の進路について、どういう方向に進みたいのか確認することができた。」「自分はまだ1年生だが、この時期に大学について知ることができてよかった。」などの感想が寄せられました。

北上市生涯学習センターでの授業風景

社会福祉系統について講義する
岩手県立大学藤野講師

期日	学部	講師	
12/3（土）	人文・教育・心理	盛岡大学	齋藤直樹
	経済・経営	富士大学	堀　圭介
	看護	岩手県立大学	野口恭子
	法・政治	岩手大学	江原勝行
	福祉	岩手県立大学	細田重憲
	医・歯・薬	岩手医科大学	佐藤洋一
1/16（月）	人文	岩手大学	後藤尚人
	農・環境	岩手大学	木村賢一
1/17（火）	医・歯・薬	岩手医科大学	佐藤洋一
	看護	岩手県立大学	井上都之
1/18（水）	法・政治	岩手県立大学	新田義修 ほか
	工学	岩手大学	吉澤正人
1/19（木）	経済・経営	富士大学	影山一男
	福祉	岩手県立大学	藤野好美
1/20（金）	栄養	盛岡大学	佐藤文代
	情報	岩手県立大学	馬淵浩司
1/21（土）	教育・心理	盛岡大学	湯沢康晴

平成23年度シンポジウム

2月4日（土）エスポワールいわてにて、いわて高等教育コンソーシアム・シンポジウム「いわての復興-5大学の果たす役割とは-」を開催しました。東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県に所在する大学として、いわて高等教育コンソーシアム構成5大学では、各大学の特色を生かし様々な震災復興活動を行っています。このシンポジウムでは、いわての5大学が行っている震災復興活動について共有を計ると共に、震災復興へ5大学が果たすべき役割について考える機会としました。

第1部は「東日本大震災津波からの復興に向けて」と題し、達増拓也岩手県知事による基調講演が行われ、岩手県の現状や三陸復興にかける想いと今後の復興策についてご講演いただきました。第2部では各大学の教職員、学生から各大学で行われた活動について、コンソーシアム取組担当者からはいわて高等教育コンソーシアムで行っている震災復興活動について報告がありました。引き続き行われた第3部では、岩手県立大学佐々木民夫副学長のコーディネートによるパネルディスカッション「震災復興-5大学の果たす役割とは-」が行われ、県内外の参加者との質疑応答も交えてのディスカッションとなりました。

震災復興活動について報告する学生

5大学によるパネルディスカッション

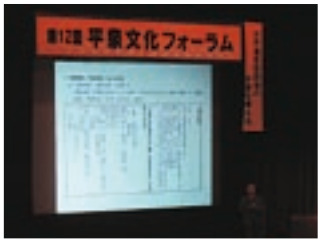
平泉文化フォーラム

平泉文化遺産関連の発掘調査成果や研究成果を広く県民に公開する第12回平泉文化フォーラムを、岩手県教育委員会といわて高等教育コンソーシアム主催で、2月4日(土)、5（日）の二日間にわたり、一関市文化センターを会場として開催しました。

主催者を代表し岩手大学小川智副学長の挨拶の後、放送大学教授の五味文彦氏から「世界遺産登録後の平泉を考える」と題した基調講演が行われ、奥州北方地域、鎌倉、京都などとの広いつながりの中に平泉の魅力・独自性が育まれたことを紹介しながら、平泉の文化財の保護や活用についての今後の展望についてお話しされました。午後から翌日にかけては遺跡発掘調査や共同研究発表が行われました。このフォーラムは毎年好評で、今回も二日間で延べ400名を超える熱心な方々にご参加いただきました。

会場が一関市ということもあり、盛岡市近郊の住民の方々にも参加する機会を提供する目的で、コンソーシアム主催のバスツアーを、フォーラム一日目の2月4日(土)に開催しました。フォーラムへの参加に先立ち、車中において、平泉文化に関する解説を行うとともに、途中平泉の柳之御所資料館に立ち寄り、史跡や資料館内の見学・解説を受け、多角的に平泉文化を学習しました。

基調講演を行う五味氏



研究員による遺跡・研究報告

学生による地域づくり in 八幡平市

八幡平市との共同事業「学生による地域づくり in 八幡平市」では、2月11日（土）、12日（日）に八幡平市旧舘市小学校グランドで雪まつりを開催しました。

両日とも吹雪の中での活動でしたが、2日間で延べ36名の連携大学の学生と地域住民約20名が参加して、雪像やかまくら作り等を行いました。11日には、東日本大震災発生から11ヶ月ということで、陸前高田市の気仙大工左官伝承館にある「3．11希望の灯り」の分火式を行いました。東日本大震災被災地の復興と人口減少など様々な問題を抱える舘市地区の活性化を願い、3．11希望の灯り協議会会長から、地区代表の舘市地区振興協議会会長と学生代表が希望の灯りを受け取り、東日本大震災が発生した14時46分には参加者全員で黙とうをささげました。

また、12日にはキャンドルナイト用に作成した雪灯籠を着色して「絆」の字を作りました。

参加学生からは、「こんな天気でも地域の方々は雪像やかまくら作りに参加してくれ、昼食の準備もしてくれた。舘市地区の温かさを感じた。」、「自分達が舘市地区の活性化に少しでも役に立てれば嬉しい。」といった、地域住民への感謝や舘市地区の発展を願う声が聞かれました。

希望の灯りをモニュメントに掲げる様子

「絆」の完成を喜ぶ地域住民と参加学生

平成23年度下半期の報告

●平成23年度後期「いわて学」実施報告

5大学の共通授業「いわて学」は、平成22年度から開講し、前期･後期の2つの授業を行っています。

平成23年度後期は、「平泉から知るいわて」をテーマに、107名が履修しました。

5大学教員の他、県内で活躍中の外部講師による講義もあり、履修者からは「充実した授業だった」等の感想が寄せられました。

また、平泉での現地講義では、歴史や文化に直接触れると共に、世界遺産登録後の活気を感じてきました。さらに大学混成のグループ学習を取り入れたことにより、様々な意見を通じ、学生が主体的にいわての地域特性を考えられる授業となりました。

平泉での現地講義の様子

グループワークの様子

回	日時		内容	講師	会場	
1	10/15(土)	9:30~11:00	いわて「位置・役割」の変遷	岩手県立大学　佐々木民夫	アイーナ812	
2		11:15~12:45	グループワークで知るいわて･平泉	岩手県立大学 豊島正幸／盛岡大学 熊谷常正		
3	10/22(土)	9:30~11:00	平泉から知るいわての歴史	盛岡大学　熊谷常正	マリオス188	公開
4		11:15~12:45	平泉文化と浄土思想	岩手県立大学盛岡短期大学部 誉田慶信		
5	10/29(土)	9:30~11:00	平泉から知るいわての資源（漆）	浄法寺漆産業　松沢卓生	マリオス188	
6		11:15~12:45	現地講義前学習	岩手県立大学 佐々木民夫･豊島正幸／盛岡大学 熊谷常正		
7 8	11/5(土)	9:00~17:00	実地講義（平泉）	盛岡大学　熊谷常正	平泉	
9	11/12(土)	9:30~10:30	平泉の情報発信と地域振興	県南広域振興局職員	アイーナ812	
10		10:45~12:45	平泉の文化と歴史　○グループワーク	岩手県立大学 豊島正幸／盛岡大学 熊谷常正		
11	11/19(土)	9:30~11:00	平泉から知るいわての食文化①～いわての食文化と伝承の背景～	岩手大学　菅原悦子	アイーナ812	公開
12		11:15~12:45	平泉から知るいわての食文化②～岩手県南の餅文化とその伝承活動～	世嬉の一酒造(株)　佐藤晄僖		
13	11/26(土)	9:30~11:00	平泉から知るいわての民俗・祭り	岩手県立大学盛岡短期大学部 松本博明	アイーナ812	
14		11:15~12:45		盛岡大学　大石泰夫		
15	12/3(土)	9:30~11:00	まとめ・発表　○グループワーク	岩手県立大学 豊島正幸／盛岡大学 熊谷常正	アイーナ812	

平成24年度上半期の計画

●平成24年度前期「いわて学」実施予定

5大学共通授業「いわて学」は、平成24年度の授業テーマを前期「三陸から知るいわて」、後期「平泉から知るいわて」として授業を実施します。

平成24年度は、前期･後期の共通サブテーマを「いわての復興を考える」とし、授業に震災復興の視点を取り入れていきます。

5月19日（土）から始まる、前期「いわて学」では、宮古周辺での1泊2日の講義や岩手県立博物館での講義、大学混成のグループ学習を取り入れながら、学生が「いわて」の地域特性や魅力、震災復興について主体的に考えていけるような授業展開としていきます。

回	日時		内容	講師	会場
1･2	5/19(土)	9:30~12:45	○授業概要説明　○グループワークで考える三陸いわて	岩手県立大学　佐々木民夫・豊島正幸	アイーナ803
3･4	5/26(土)	9:30~12:45	○自然から知る三陸いわて	岩手県立大学　豊島正幸	マリオス188
5･6･7	6/2(土)	9:30~15:00（集合時間等別途指示）	○博物館から知る三陸いわて（岩手県立博物館での現地講義）	岩手県立博物館　学芸員	岩手県立博物館
8･9	6/9(土)	9:30~12:45	○歴史から知る三陸いわて	盛岡大学　熊谷常正	アイーナ803
10 11 12 13	6/16(土) 17(日)	1泊2日（詳細別途指示）	○現地で知る三陸いわて（宮古での現地講義）	現地での講師等、授業の詳細は別途連絡	宮古
14	6/30(土)	9:30~11:00	○東日本大震災津波からの復興に向けて	岩手県職員	マリオス188
15		11:15~12:45	○グループワーク（まとめ）	岩手県立大学　佐々木民夫・豊島正幸	

○岩手医科大学共通教育センター平成24年度医・歯・薬学部合同特別講義（TV会議システム配信講義）

開講日	講師	講義内容
6/6(水)　14:00～16:10	NPO法人岩手子ども環境研究所･理事　吉成信夫先生	憲治と心の復興　一子どもたちとともに一
6/27(水)　14:40～16:10	野村胡堂あらえびす記念館･館長　野村清一先生	「銭形平次」の生みの親“野村胡堂”の生涯
11/2(金)　14:40～16:10	東北大学大学院薬学研究科･教授　今井　潤先生	大迫研究からHOMED-BP研究、そしてガイドラインへ
11/30(金)14:40～16:10	盛岡市教育委員会･教育委員　吉丸蓉子先生	限りない人間愛　一岩手医科大学創立者・三田俊次郎の業績一

編集後記

平成23年３月11日に発生した東日本大震災から一年が経ちました。

岩手県の沿岸被災地13自治体からなる「岩手県沿岸市町村復興期成同盟会」が、地域を担う中核的人材育成プロジェクトの推進を強く要望しており、その担い手としていわて高等教育コンソーシアムが事業を展開していくこととなりました。中核的人材育成事業の平成24年度の本格的始動に向け現在基盤整備等を進めています。また、今後も「きずなプロジェクト」や岩手県立大学の「いわてGINGA-NETプロジェクト」の活動、各大学の特色を生かした支援を継続、実施していきます。

被災地域と共に一日も早い復興を目指しさまざまな復興推進活動を行っていく所存でございますので、引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

発行連絡先
いわて高等教育コンソーシアム事務局（岩手大学総務企画部総務広報課 内）
〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18-8　TEL.019-621-6855 FAX.019-621-6014
E-mail：ihatov5@iwate-u.ac.jp　URL：http://www.ihatov-u.jp/

構成大学
岩手大学 http://www.iwate-u.ac.jp/
岩手県立大学 http://www.iwate-pu.ac.jp/
岩手医科大学 http://www.iwate-med.ac.jp/
富士大学 http://www.fuji-u.ac.jp/
盛岡大学 http://www.morioka-u.ac.jp/

平成24年3月30日発行